

平成 20 年 3 月 26 日

選手、役員各位

(財) 日本卓球協会
ルール・審判委員会

ラバーのラケットへの接着に関する情報と本会見解の通達のこと

1. 国際卓球連盟 (ITTF) の決定

2 月 27 日開催の ITTF の総会は次の事項の決定をした。

「ラケットに貼られるラバーは ITTF で公認された状態で使用されるものとし、どのような方法であれ、物理的、化学的な処理（通常使用のキズを除く）をして、そのラバーの競技性能、摩擦性能、外観、色、構造、表面等を変更、修正してはならない。」

上記決定の趣旨と意味するところ（(財) 日本卓球協会の見解）：

ラバーのラケットへの接着に当たり、本会公認の接着剤以外の化学物質を含む製品（例えば接着補助剤）の使用は公認されたラバーを変質させる恐れがあり、その使用を避けて欲しいということがこの決定の趣旨であると考えている。

変質とは、①Enez でのラケット検査で「赤ランプ」点灯となったり、②審判のラケット検査でラバーの厚さが 4.0mm 以上になるなどの違反ラケットになることである。

2. 本会の対応決定

3 月 15 日開催の本会の理事会と評議員会は、上記 ITTF の決定を受けて、選手の使用するラケットが大会時のラケット検査で違反ラケットとならないために、またどの大会でも同じ基準でラケット検査が行われるよう本件に関して、早急に卓球関係者に本会の見解とガイドラインを、通達することを決定した。

3. 接着剤の現状について

1) 卓球メーカーで製品化されるラバーはスポンジとゴム製ラバーを接着させる際に、揮発性のある有機溶剤 (VOC) を含む強力な接着剤が使用されている。

メーカーでは夫々の方法で VOC のガス抜きをして包装、出荷している。しかし、100% VOC が抜けているわけではない。

2) 本会が公認している接着剤も ITTF が定めている基準以下 (Enez で赤ランプが点灯しない) の、極少量であるが、VOC が含まれている。

3) 本会の公認対象ではない接着補助剤も、これ自体では Enez で赤ランプが点灯しないと考えられるが、VOC が含まれている。

2. 現状どのような問題が発生しているか。

1) 新しいラバーを使用する場合、包装材からラバーを取り出し、時間があまり経ていないうちにラケットに接着、大会で使用して Enez のラケット検査（以下検査という）で赤ランプが点灯した。

2) 新しいラバーを貼ったラケットをラケットケースなどに入れて、密閉状態にしている

試合に臨み、検査で赤ランプが点灯した。

- 3) 接着剤と共に接着補助剤を使用したラケットが検査で赤ランプが点灯した。接着剤と接着補助剤の VOC が合算され測定されたことによると考えられる。また接着剤と接着補助剤により、メーカーでの使用接着剤が溶け出されたとも考えられる。(2008年2月開催の大阪国際、3月開催の東京選手権での赤ランプ点灯は、これに起因すると考えられる)
- 4) 接着剤と接着補助剤を併用することによって、スポンジが膨張し、審判の検査でラバーの厚さが 4.0mm を超えることがある。

4. ラバーのラケットへの接着について留意願いたいこと。

- 1) 新しいラバーを使用する場合、包装材からラバーを取り出してから、ラバーに残っているかも知れない VOC を除去するために、72 時間以上、空気に触れさせた後に、ラケットにラバーを接着させること。
- 2) ラバーを接着させた後、ラケットケース等密閉した容器にラケットを連続して長時間入れていた場合は、その時間と同じ程度の時間、ラケットをその容器から外に出してから、プレーに臨むこと。
- 3) 接着補助剤は VOC を含んでおり、その使用を避けて欲しいというのが本会の姿勢である。但し、同補助剤は本会の公認品ではないので、選手個人の責任の下に使用することについて規制するものではない。

以上

追って、選手各位へ：

国際卓球連盟と共に (財) 日本卓球協会は卓球界から有害物質を取り除かなければならないということから、VOC を含む接着剤の中味を規制するルールの改定に強い意思で取り組んでいます。それは、選手の健康や環境への配慮と共に、スポーツ界や一般社会からの厳しい目を意識しなければならない状況であるからです。今回の通達については日本の卓球メーカーとも話し合い了解されたものです。

どうか、本通達の内容を認識され、ラバーのラケットへの接着行為をしていただきたいと存じます。

また、大会では、Enez によるラケット検査が行われますが、どの大会でも統一的に実施されるように 3 月 19 日付けにて全加盟団体に検査実施方法を連絡しました。

ここでも述べていますが、ラケット検査は Enez で「赤ランプ点灯」した選手を見つけ、試合を敗戦にするあるいは失格にすることが目的ではありません。適切な接着剤の使用と適切な接着行為を訴えることにあります。従って、事前の Enez によるボランテアのラケット検査を受けて、赤ランプが点灯した場合は、審判長や関係者の指導を受けて、試合ではグリーンランプが点灯するラケットを使用するようにして下さい。

以上